



## 一本の工具に誇りを持ち日本のものづくりを支える

株式会社アサヒ工具製作所 奈良県香芝市

株式会社アサヒ工具製作所は、高速切削、難削材切削を可能とする超硬切削工具を製造し、あらゆる加工ニーズに対応可能な製品の製造販売を行うことで自動車産業を始め、多様な業種をサポートしている。

同社は「漸進・前進・全進」を企業モットーに、顧客のあらゆる要求に応える工具作りを目指して日々努力を重ねている。

製品の精度は工具で決まる。我が国が工業国としてここまで発展してきたのも、一本の工具の貢献するところ大であるとの誇りを持ち、より高品質、より低価格の製品をユーザーに提供していく。

### 会社概要



会社名：株式会社アサヒ工具製作所  
所在地：香芝市北今市2丁目261-2  
電話：0745-77-6120  
FAX：0745-77-6112  
創業：1942（昭和17）年6月  
設立：1966（昭和41）年3月  
代表者：代表取締役社長 甲斐 匡介  
資本金：30,000千円  
従業員：84名（内正社員72名）  
事業内容：超硬切削工具の製造販売  
URL：<http://www.asahikougu.co.jp/>



本社社屋

### 一本の工具製作に強い誇り

株式会社アサヒ工具製作所は、昭和17年に当時の海軍省の指定工場として、高速度鋼切削工具、主として歯切工具、サイドカッター等の製造を大阪市内で行ったことが始まりである。

昭和22年には業界初の鑄造カッターの製造、販売を始める。主に、工作機械を作るために必要な刃物づくりに注力していた。

その後、高速度鋼切削の技術を生かし、現在の主力製品である「超硬切削工具」の生産を開始した。超硬合金の加工は当時、最先端であった。

昭和39年には、東京、名古屋、大阪に販売代理店を設け販売網の整備を図り、昭和41年、法人化して株式会社を設立。現社長の実父である甲斐美晴氏が社長に就任した。昭和44年には、奈良県生駒郡三郷町に工場を新築し、本社を大阪市内から移転。さらに、昭和60年には、工場を拡張するため、現在の香芝市に本社工場を新築移転した。

同社は主に、自動車関連産業向け工具について、様々なユーザーの要望に応えることで信頼関係を構築し、業容を拡大してきた。

同社の主力製品である「超硬切削工具」の素材となる超硬合金は、一般の鉄のように熱を加え溶かして製錬するのではなく、金属粉を成型、焼結する粉末冶金という方法で作られる。

超硬切削工具の材料となるチップは、炭化タングステンを主成分とし、コバルトや炭化チタン、炭化タンタル等を混ぜ合わせて作られ、耐摩耗性、靱性、硬度等のそれぞれの特徴を生かした材種があり、これらを使って様々な工具が作られている。

特に、超硬合金をうまく組み合わせて刃先を作る「ロー付け」と呼ばれる工程が難しく、特殊な

技術が求められ、より高い精度の工具を作るには、手作業が必要となる。

そのような特殊技術が必要な中、同社は、現在では、約7,700アイテムに上る多品種の工具を作ることができ、豊富な品揃えにより、ユーザーの多様なニーズに即応可能な体制を構築している。

## ハイパーバニシングドリルとは

このように、多種多様なユーザーからのニーズに応えようとする中で生まれたのが、主力製品となった「ハイパーバニシングドリル」である。アルミ加工において、従来の穴あけ、面取り（穴の形状を整える作業）が同時にできる高精度なバニシングドリル並みの精度、緻密さを維持しつつ、切削速度を2倍にした高能率化仕様の製品で、納入先の加工負荷が低減され、工具寿命も大幅に伸びた。

この製品は、自動車、オートバイ部品等アルミ材加工メーカーや、医療機器、産業機器等幅広い分野で利用され、加工時間の短縮によるコスト削減、高品質、高精度品の製造に貢献している。

今般、同社は世界初となる「鋼用ハイパーバニシングドリル」の開発に成功した。この製品は、これまで加工が不可能とされてきた被削材（鋼）に対しても、高精度バニシング加工を行うことが可能とし、昨年、日本国際工作見本市にも出展された。

この製品は、センタリング（位置決め）、ドリル（穴あけ）、リーマー（面取り）の三工程を同時に完了できる（工具の複合化）ことから、加工時間の短縮によるコスト削減、工具の寿命が伸び、切削長あたりの工具コストも低減できる等のメリットがある。

甲斐匡介社長は「製品開発、生産管理、クオリティ、精度の高さを更に追求することで、納入先の加工設備の合理化ニーズに対応していきたい」と語る。



超硬切削工具（エンドミル・リーマー・カッター）等同社製品

## 「漸進・前進・全進」でさらに成長

同社は、昭和41年の会社設立時に先代社長の甲斐美晴氏が定めた、「漸進・前進・全進」を企業ポリシーとしている。

「漸進」とは、一步ずつ着実に進むこと。急激に物事を行おうとせず、足元をしっかりと固めて、休むことなく進んでいくことを示す。

「前進」とは、前を見定めて進むこと。企業にとって、前を見定めることの重要性、困難さを示すとともに、常に前向きに物事を考え、取り組んでいくことの意義を示す。

「全進」とは、全力でかつ全員で進むこと。人がある目的を持って集い、何かを目指すときの喜びの本質を示す。

「何千万円もする高価な工作機械も、一本の工具が正しく機能して初めて真価を発揮する。だからこそ、当社が製作する一本の工具に大きな責任と誇りを感じ、日々、工具の製作に取り組んでいる」「昨年、当社は創立50年目を迎えたが、地道に努力を重ね、ここまでやってこれたことが一番の成果である。これからも、従業員やその家族を大事にし、地道に高精度な工具を作り続ける」と甲斐社長は語る。

今後も、無理をせず、一步ずつ足元をしっかりと固め、前を見定めて、高精度な工具づくりを追求していくことであろう。（中井正人、山城 満）